



中央区

区ビジョン まちづくり計画

Urban development plan



新潟市中央区役所

中央区の
イメージカラー

ウォーターフロントブルー

北は日本海、中央には信濃川、東に栗ノ木川、西に関屋分水路、南に烏屋野潟という豊かな水辺に恵まれた中央区。様々な都市機能が集積する一方で、国の重要文化財に指定された萬代橋や、みなとまちの伝統文化を感じるまち並みも存在しています。「ウォーターフロントブルー」は、中央区が目指すコンセプトを表現するイメージカラーです。



目次

CONTENTS

- 01 目次
- 02 はじめに
- 02 計画の構成
- 04 中央区 区ビジョン基本方針
- 04 区の将来像
- 04 目指す区のすがた
- 06 各区のすがた
- 08 第1章 中央区の概要
- 15 第2章 中央区 区ビジョンまちづくり計画体系図
- 16 第3章 中央区の現状、特性と課題／まちづくりの方針
- 19 Ⅰ 賑わいと活力あふれ訪れたいくなる拠点のまち
- 27 Ⅱ 共につながり安心して暮らせるまち
- 37 Ⅲ 水と緑に囲まれた自然と都市が共生するまち
- 43 Ⅳ 歴史と文化を受け継ぎ発展するまち
- 49 用語集

はじめに

中央区区ビジョンまちづくり計画は、新潟市総合計画の一部である区ビジョン基本方針の実現に向けた取組と、実施計画に相当する具体的な取組を示した中央区のまちづくり計画です。

計画期間は、令和5（2023）年度から令和12（2030）年度までの8年間とします。

ただし、実施計画は、取組の実施状況や社会・経済状況の変化などに対応するため、2年ごとに策定し進捗管理を行います。

計画の構成

【新潟市総合計画とは】

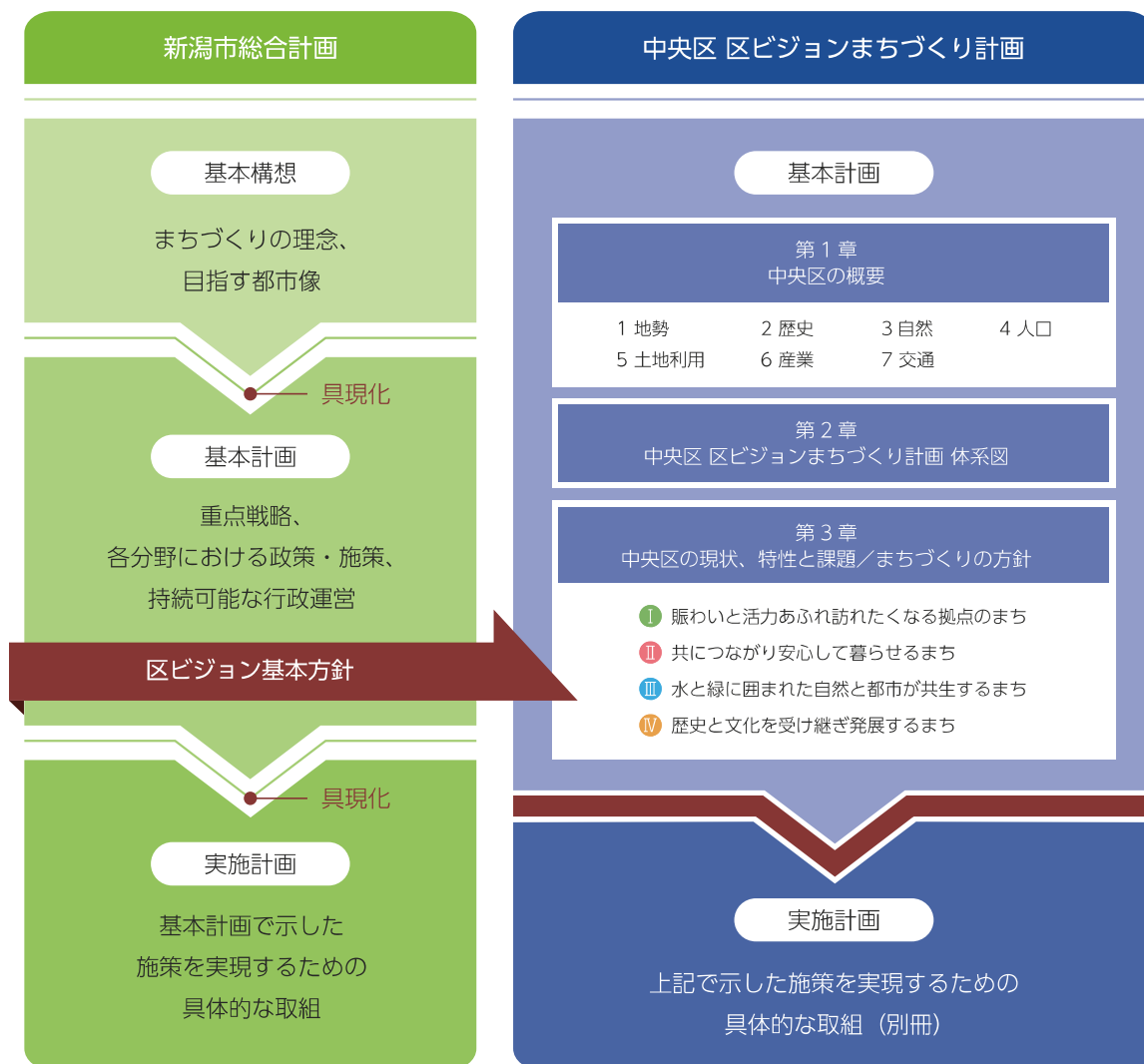
- 新潟市が目指すまちづくりのあり方を示すもので「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成されています。区ビジョンまちづくり計画の上位計画です。
- 「基本構想」「基本計画」は令和5（2023）年度から令和12（2030）年度までの8年間を計画期間とし、新潟市の目指すまちづくりの方針と、その実現に向けた政策と施策について記載するものです。また、施策の実現に向けた具体的な取組を掲載する「実施計画」は計画の中間である令和8年度に必要な見直しを行う予定です。

【区ビジョン基本方針とは】

- 中央区の将来像や目指す方向などを示すものです。
- 新潟市次期総合計画の「基本計画」の一部として策定されます。
- 中央区自治協議会*で検討・審議し、新潟市議会の議決を経て策定しました。

【区ビジョンまちづくり計画とは】

- 「基本計画」と「実施計画」で構成され、うち「基本計画」は、区ビジョン基本方針を踏まえ、より具体的な取組の方向性を示すものです。
- 計画期間は、令和5（2023）年度から令和12（2030）年度までの8年間となります。
構成は、「Ⅰ 中央区の概要」「Ⅱ 中央区区ビジョンまちづくり計画体系図」「Ⅲ 中央区の現状、特性と課題／まちづくりの方針」となっています。
- 「実施計画（別冊）」は、2年ごとに策定し、進捗管理を行っていきます。



【SDGs*（持続可能な開発目標）とは】

○平成27（2015）年9月開催の「国連持続可能な開発サミット」で採択された、よりよい未来をめざすための令和12（2030）年までの世界共通の目標「Sustainable Development Goals」の略称です。

○新潟市総合計画の基本構想に掲げた「持続可能なまちづくり」という方向性は、SDGsにおける持続可能な開発（将来世代のニーズに応える能力を損ねることなく、現代の世代のニーズを満たす開発）の考え方とまさに一致しています。

○新潟市総合計画においても「経済」「社会」「環境」の3側面の調和など、SDGsの基本的な考え方を意識して、それぞれの政策・施策を推進することとしています。

○全ての政策分野及び行財政運営において、市民・民間事業者・国・県・周辺市町村など多様な主体とのパートナーシップを活かした施策推進を重視していきます。



中央区 区ビジョン基本方針

〈新潟市総合計画2030より抜粋〉

区の将来像

にぎわう都心、豊かな自然、みなとまち文化が織りなす
活気あふれる拠点のまち



目指す区のすがた

I 賑わいと活力あふれ訪れたいくなる拠点のまち

- ・ 様々な高次都市機能*が集積した都心を有する区として、これまでの歴史の中で蓄積したものを集積し、各地域の成り立ちや特色を活かしながら、人・モノ・情報が活発に行き交い、住む人、働く人、学ぶ人、そして観光やビジネスなどで訪れる人にとって魅力的で、賑わいあふれるまちを目指します。
- ・ 美しい景観形成に努めるとともに歩きやすく自転車や公共交通など多様な手段で移動しやすい環境の整備を進め、まちなかの活性化に向けた回遊性向上を図ることにより、子どもからお年寄りまで誰もが出かけたいくなる利便性の高い、活力に満ちたまちを目指します。

Ⅱ 共につながり安心して暮らせるまち

- ・ 少子高齢化の進行など、社会情勢が大きく変化する中、区民や区内で活動する団体同士のつながりによる持続可能な地域コミュニティ*活動を支援し、年齢や性別、障がいのあるなしなどにかかわらず、互いに支えあい、助けあい、誰もが安心していきいきと暮らせるまちを目指します。
- ・ 生活様式やニーズが多様化する中で、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進め、家庭・地域・学校が連携を深めることで、地域全体で子育てを支援するまちを目指します。
- ・ 自然災害や都市型災害などの発生時に、一人一人が適切な判断と行動をとれるよう意識の向上を図るとともに、身近な地域の関係づくりを進め、誰もが安心して安全に暮らせるまちを目指します。

Ⅲ 水と緑に囲まれた自然と都市が共生するまち

- ・ 都心部を流れる信濃川などの水辺空間や身近な緑を区民や事業者などとともに守り育てることで、一人一人が自然環境への愛着と誇りをもち、自然と共生する美しくうおいのあるまちを目指します。
- ・ 市街地に多くの自然を残す鳥屋野潟周辺や海岸沿いの松林などの豊かな自然を学びや体験、やすらぎの場として保全しながら利活用を図り、自然の豊かさを感じられる憩いのあるまちを目指します。

Ⅳ 歴史と文化を受け継ぎ発展するまち

- ・ 開港5港*の一つとして古くから栄えた風情あふれるみなとまちの歴史・文化を受け継ぐとともに、食文化の魅力発信や新たな産業の創出・育成に取り組むことにより、様々な文化が融合した、未来につながるまちを目指します。
- ・ 新潟まつりをはじめ、各地域に伝わる歴史・文化に多様な世代が親しむことができる環境をつくることで、文化の継承やまちなみの保存に対する意識を高め、住む人々が地域を愛し、地域を誇れるまちを目指します。

各区のすがた

項目		新潟市 全体	中央区	全市に占 める割合	北区	東区	
人 口	総 数	令和2（2020）年人口（人）	789,275	180,345	22.8%	72,804	134,446
		令和27（2045）年推計人口（人）	631,510	160,995	25.5%	55,285	100,674
	15歳未満	令和2（2020）年人口（人） 割合（%）	91,224 (11.6)	19,599 (10.9)	21.5%	8,195 (11.3)	15,867 (11.8)
		令和27（2045）年推計人口（人） 割合（%）	60,835 (9.6)	16,084 (10.0)	26.4%	5,692 (10.3)	9,988 (9.9)
	15～64歳	令和2（2020）年人口（人） 割合（%）	463,605 (58.7)	112,981 (62.6)	24.4%	41,301 (56.7)	79,308 (59.0)
		令和27（2045）年推計人口（人） 割合（%）	317,625 (50.3)	87,623 (54.4)	27.6%	28,700 (51.9)	52,253 (51.9)
	65歳以上	令和2（2020）年人口（人） 割合（%）	234,446 (29.7)	47,765 (26.5)	20.4%	23,308 (32.0)	39,271 (29.2)
		令和27（2045）年推計人口（人） 割合（%）	253,050 (40.1)	57,288 (35.6)	22.6%	20,893 (37.8)	38,433 (38.2)
		令和2（2020）年単身高齢者数（人）	35,041	10,409	29.7%	2,644	6,643
		65歳以上に占める単身高齢者数の割合（%）	14.9	21.8	—	11.3	16.9
昼間人口	昼間人口	799,446	232,902	29.1%	70,513	124,337	
	昼夜間人口比率	101.3	129.1	—	96.9	92.5	
人口動態	年間増減（人）	-5,024	-552	—	-779	-1,129	
	うち自然動態（人）	-4,310	-737	—	-509	-632	
	うち社会動態（人）	-714	185	—	-270	-497	
世 帯	世帯数（世帯）	331,272	90,860	27.4%	27,418	57,491	
	1世帯当たりの人員（人）	2.4	2.0	—	2.7	2.3	
	核家族の割合（%）	53.6	45.2	—	56.6	56.3	
	単独世帯の割合（%）	35.1	48.6	—	27.5	33.8	
	3世代世帯の割合（%）	7.1	3.0	—	10.5	5.9	
面 積	面積（km ² ）	726.28	37.75	5.2%	107.61	38.63	
農 業	農家戸数（戸）	9,675	174	1.8%	1,414	282	
	基幹的農業従事者数（人）	10,379	197	1.9%	1,465	303	
	うち65歳以上の割合（%）	67.8	59.4	—	68.6	62.7	
	経営耕地面積（ha）	28,463	384	1.3%	3,991	713	
工 業	事業所数（所）	949	100	10.5%	156	176	
	従業者数（人）	37,478	1,656	4.4%	6,945	8,725	
	製造品出荷額等（億円）	11,469	244	2.1%	3,405	2,962	
商 業	事業所数（所）	7,985	2,831	35.5%	542	1,138	
	従業者数（人）	68,805	23,382	34.0%	4,292	11,339	
	年間商品販売額（億円）	32,319	13,394	41.4%	1,408	5,265	

(出典)

人口：国勢調査（R2）、推計値（新潟市全体）は国勢調査（R2）および人口動態統計特殊報告（H25～H29）から算出した新潟市独自推計値
推計値（各区）は新潟市全体の推計人口を、新潟市独自推計である「各区将来推計人口（H30）」の男女別5歳階級別の構成比から算出したもの

昼間人口：国勢調査（R2）

人口動態：新潟県人口移動調査（R3）

世帯：国勢調査（R2）

江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	項目		
67,972	75,069	43,437	160,656	54,546	令和2（2020）年人口（人）	総数	
51,875	55,965	30,282	140,380	36,054	令和27（2045）年推計人口（人）		
8,722 (12.8)	9,080 (12.1)	4,926 (11.3)	19,178 (11.9)	5,657 (10.4)	令和2（2020）年人口（人） 割合（%）	15歳未満	
4,521 (8.7)	5,548 (9.9)	2,594 (8.6)	15,115 (10.8)	2,898 (8.0)	令和27（2045）年推計人口（人） 割合（%）		
38,653 (56.9)	41,904 (55.8)	24,761 (57.0)	94,898 (59.1)	29,799 (54.6)	令和2（2020）年人口（人） 割合（%）	15～64歳	人口
25,469 (49.1)	28,772 (51.4)	13,879 (45.8)	77,888 (55.5)	16,035 (44.5)	令和27（2045）年推計人口（人） 割合（%）		
20,597 (30.3)	24,085 (32.1)	13,750 (31.7)	46,580 (29.0)	19,090 (35.0)	令和2（2020）年人口（人） 割合（%）	65歳以上	
21,885 (42.2)	21,645 (38.7)	13,809 (45.6)	47,377 (33.7)	17,121 (47.5)	令和27（2045）年推計人口（人） 割合（%）		
2,431	2,987	1,255	6,735	1,937	令和2（2020）年単身高齢者数（人）		
11.8	12.4	9.1	14.5	10.1	65歳以上に占める単身高齢者数の割合（%）		
67,440	64,612	42,089	146,281	51,272	昼間人口	昼間人口	
99.2	86.1	96.9	91.1	94.0	昼夜間人口比率		
-131	-547	-562	-604	-720	年間増減（人）	人口動態	
-319	-500	-373	-722	-518	うち自然動態（人）		
188	-47	-189	118	-202	うち社会動態（人）		
24,891	28,003	14,922	69,006	18,681	世帯数（世帯）	世帯	
2.7	2.7	2.9	2.3	2.9	1世帯当たりの人興（人）		
61.9	60.1	56.9	53.8	56.5	核家族の割合（%）		
23.5	24.1	21.4	36.7	20.7	単独世帯の割合（%）		
9.6	10.2	14.9	5.6	16.0	3世代世帯の割合（%）		
75.42	95.38	100.91	94	176.57	面積（km ² ）	面積	
1,319	1,192	1,828	1,170	2,296	農家戸数（戸）	農業	
1,403	1,129	2,261	1,504	2,117	基幹的農業従事者数（人）		
70.2	70.9	64.4	61.0	74.1	うち65歳以上の割合（%）		
3,087	3,336	5,596	3,650	7,709	経営耕地面積（ha）		
111	76	124	68	138	事業所数（所）	工業	
6,058	2,400	5,803	1,487	4,404	従業者数（人）		
1,405	567	1,692	339	854	製造品出荷額等（億円）		
743	604	442	1,154	531	事業所数（所）	商業	
6,576	4,606	2,925	12,519	3,166	従業者数（人）		
2,860	1,068	818	6,826	680	年間商品販売額（億円）		

面積：全国都道府県市区町村別面積調（R4.1）

農・工・商業：2020農林業センサス、工業統計調査（R2）、経済センサス（R2）

（※1）推計値（新潟市全体）と推計値（各区）は、基準としているデータが異なるため、区別、年齢別の区別人口の合計値は新潟市全体の年齢別人口と一致しない

第1章

中央区の概要

1 地 勢

- 中央区は、新潟市の放射状に伸びる交通軸の要に位置し、北は日本海に開け中央には信濃川、東に栗ノ木川、西に関屋分水路、南に鳥屋野潟、さらに海岸線の白砂青松という水と緑に囲まれた地域です。
- 区の面積は新潟市の全面積（726.28km²）の約5%を占める37.75km²で、8区の中で一番小さくなっています。
- 地勢はおおむね平坦ですが、鳥屋野潟周辺をはじめ、海拔ゼロメートル以下の地域もあり、また、海岸部に連なる砂丘がわずかに高台をなしています。
- 区内では土地の高度利用が進み、様々な都市機能が集積しています。一方で、国の重要文化財である萬代橋や、みなとまちの歴史的建造物など、伝統的文化を感じることもできるまちなみも存在しています。



上空より区内を望む



重要文化財萬代橋

2 歴 史

- 寛永年間（1622～44年頃）
海岸砂丘部及び亀田郷の内陸砂丘部と自然堤防に次々と村ができ、現在の村の原型が出そろいました。
- 明暦元（1655）年
新潟町が白山・寄居島へ移転し、現在の町割りの原型となり、この時期に西回り航路が整備されました。

○貞享元（1684）年

沼垂町が阿賀野川・信濃川の川欠けにより、4度の移転を経て現在地に落ち着きました。

○元禄年間（1688～1704年頃）

日本海側最大の港町となりました。

○延享3（1746）年

信濃川右岸の大きな中洲・附寄島の開発が、安倍玄的ら5人により開始され、寛延3（1750）年に完了し、流作場新田と呼ばれました。

○明和5（1768）年

新潟町で長岡藩の御用金賦課をきっかけに町民が蜂起し、2ヵ月にわたり涌井藤四郎を総代とする町民による自治が行われました。

○天保14（1843）年

新潟町は幕府領となり、初代新潟奉行として赴任した川村修就は、砂防林の造成、物価の安定、海岸防備、風俗の改善など様々な施策を行いました。

○安政5（1858）年

新潟町は修好通商条約で開港5港の一つとなり、明治元（1868）年に開港しました。

○明治3（1870）年

県庁所在地となり、開化政策が積極的に進められ、明治10（1877）年までに新潟郵便役所、国立銀行などが置かれました。

○明治12（1879）年

新潟町に寄居白山外新田が編入され区政が施行されました。

○明治22（1889）年

関屋村古新田と合併し、全国で最初に誕生した39市の一つとして市制が施行されました。

○大正3（1914）年

新潟市と沼垂町は近代埠頭の築造を期して合併しました。

○昭和4（1929）年

萬代橋は現在の3代目に架け替えられました。

○昭和18（1943）年

石山村・鳥屋野村と新潟市は合併しました。

○昭和30（1955）年

新潟大火では市役所をはじめ、中心市街地の多くの建物が焼失しました。

○昭和39（1964）年

新潟国体が開催されました。国体に向けた整備のため、市街地の堀が全て埋め立てられました。また、同年マグニチュード7.5の新潟地震が発生し、被害は新潟市中心部に集中しました。

○昭和47（1972）年

関屋分水路が通水しました。

○昭和53（1978）年

北陸自動車道・新潟—長岡間が開通し、平成9（1997）年までに関越自動車道・北陸自動車道・磐越自動車道が全線開通しました。

○昭和57（1982）年

上越新幹線・新潟—大宮間が開通しました。

○平成3（1991）年

上越新幹線が東京駅に乗り入れ、新潟—東京間が日帰り圏内となり、新潟市は日本海側の高速交通拠点となりました。

○平成8（1996）年

拠点性を高めた新潟市は、中核市に指定されました。

○平成13（2001）年1月

平成の大合併で、黒埼町と合併しました。

○平成14（2002）年

日本・韓国で開催されたワールドカップサッカー大会では、新潟スタジアム（ビッグスワン）が試合会場となりました。

○平成17（2005）年3月

新津市、白根市、豊栄市、小須戸町、横越町、亀田町、岩室村、西川町、味方村、潟東村、月潟村及び中之口村の12市町村と合併しました。

○平成17（2005）年10月

巻町と合併しました。

○平成19（2007）年4月

新潟市は本州日本海側初の政令指定都市となり、「中央区」が誕生しました。

○平成20（2008）年5月

主要国首脳会議（G8*サミット）の労働大臣会合が朱鷺メッセで開催されました。

○平成21（2009）年9月～10月

第64回国民体育大会（トキめき新潟国体）・第9回全国障害者スポーツ大会（トキめき新潟大会）が開催されました。

○平成22（2010）年10月

APEC*食料安全保障担当大臣会合が朱鷺メッセで開催されました。

○平成26（2014）年8月

新潟市・沼垂町合併100周年記念事業を開催しました。

○平成28（2016）年4月

主要国首脳会議（G7*サミット）の農業大臣会合が朱鷺メッセで開催されました。

○平成29（2017）年8月

中央区役所が市役所庁舎内から古町地区のNEXT21に移転しました。



中央区役所（NEXT21）と新潟市役所ふるまち庁舎（古町ルフル）

○平成30（2018）年4月

新潟駅高架第1期開業及び新幹線と在来線の同一乗り換えホームの供用が開始されました。

○平成31（2019）年1月

新潟開港150周年を迎えました。

○令和元（2019）年5月

金融・世界経済に関する首脳会合（G20*サミット）新潟農業大臣会合が朱鷺メッセで開催されました。

○令和4（2022）年3月

古町ルフル広場が完成し、新潟市役所ふるまち庁舎も入居する複合商業施設古町ルフルがグランドオープンしました。

○令和4（2022）年6月

新潟駅の高架化工事が完了しました。

3 自然

- 新潟市の中心部に位置する新潟西海岸は、日本海に面し、飛砂と強風からまちを守るための防風林として江戸時代末期よりクロマツが植林され、現在では多様な動植物を有する市民の貴重な自然資源となっています。
- 中央区を流れる信濃川の両岸には、全国初の緩やかな堤防（やすらぎ堤）が整備され、緑地や遊歩道、サイクリングコースなど、河川と一体となった親水空間として、人々が集い、憩えるやすらぎの場となっています。
- 鳥屋野潟は、市街地に隣接し、貴重な自然環境を活かした市民の憩いの場として、また、市民の生活を守る遊水地として、治水上也大きな役割を果たしているほか、ガンカモ類の集団飛来地であるとともに、湖岸にはヨシが優占する広大な湿性草地在形成され、多様な動植物の生育・生息環境となっています。



白鳥と鳥屋野潟

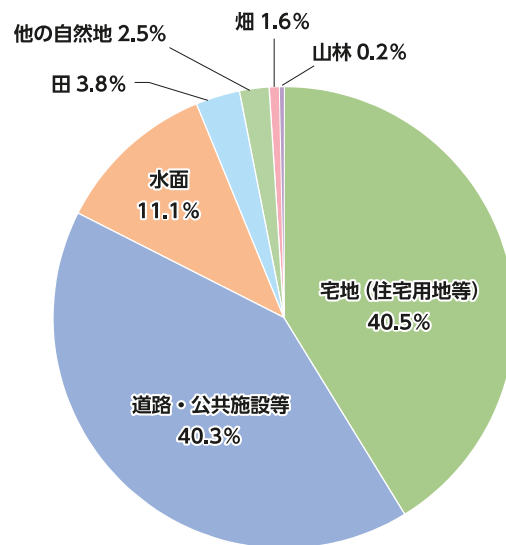
4 人口

- 人口 180,345人（8区の中で最多）
- 世帯数 90,860世帯（8区の中で最多）
- 1世帯あたりの人口 2.0人（8区の中で最小）
- 中央区年齢階層別人口、将来推計人口（階層別）
老年人口（65歳以上）の割合 26.5%（市全体の割合29.7%）

（出典）国勢調査（R2）

5 土地利用

- 都心を擁する区として、様々な都市機能が集積し、土地の高度利用が図られています。
- 面積 37.75km²（8区の中で最小）
- 用途別土地利用面積の割合
宅地が占める割合が最も高くなっています。



資料：新潟市都市計画基礎調査（H30）

6 産 業

- 中央区は、新潟市の経済をけん引する中枢の役割を担っており、商業の事業所数や年間商品販売額は8区の中で最も多く、特に飲食料品、建築材料などの卸売業や衣料品、飲食料品などの小売業の割合が高くなっています。
- 工業の事業所数は、食料品製造業、印刷・同関連業の割合が高くなっています。
- 農業では、女池菜が新潟市の食と花の銘産品*に指定されています。
また、中央区は市内最大の消費地であることから、市内産農産物の認知度を高めるとともに地産地消に努めています。
- 北前船の交流により江戸時代初めから技術を積み重ねることで、伝統的工芸品に指定された新潟漆器や、良質な水や水運を活かした酒、みそ、しょう油、こうじ、漬物などの発酵食品も有名であり、これらを活かした新たな取組が進められています。



女池菜



酒造り

7 交通

- 区内には、国道7号や8号など複数の国道の起終点があるほか、主要な県道も中央区を起点に複数の路線が整備されており、北陸自動車道、磐越自動車道、日本海東北自動車道の3路線へのアクセスも良好です。国道7号と8号の一部区間は、全国でも有数の交通量を誇る新潟バイパスとしてまちの発展を支える大動脈となっています。また、新潟バイパスに接続する栗ノ木バイパスでは立体道路の整備も進んでおり、新潟駅や新潟空港をはじめとする区内外の交通結節点*や様々な施設等が結ばれています。
- 鉄道は、上越新幹線や在来線3路線が乗り入れている新潟駅があり、陸の玄関口として公共交通の結節機能強化に向けた整備が進んでいます。また、区内へ新たな駅の設置も決定しています。
- バスは、市内中心部や郊外に向けて多様な路線が運行されているとともに、新潟駅周辺は県内外主要都市への高速バスの発着地となっています。
- 海路では佐渡航路があり、信濃川においては、水上シャトル便が運行されています。また、隣接区の新潟港山ノ下ふ頭からは関西や北海道への航路も就航しています。



整備された道路網



新潟駅



佐渡汽船とまちなみ

第2章

中央区 区ビジョンまちづくり計画体系図



第3章

中央区の現状、特性と課題／まちづくりの方針

各分野に共通する現状、特性と課題

【人口】

○中央区は、8区の中で最多の人口を擁し、世帯数も8区の中で最多となっていますが、1世帯当たりの人数は8区の中で最小となっており、核家族化が進んでいます。

年齢別の構成割合では、15歳～64歳の人口割合は全市平均と比較して高くなっており、職住近接の利便性の高い居住地として、学生や働き手が集まる一方で、0～14歳の人口割合は全市平均を下回っています。また、65歳以上の人口割合は全市平均よりも低くなっています。

地区別にみると、市全体の中でも非常に高い高齢化率を示している地区がある一方で、大規模な宅地開発が進み、人口増が見込まれる地区もあります。地区による人口構成の偏りが見られます。

全体としては、少子・高齢化の進行と人口減少は今後も続くことが予想されており、このことにより様々な分野で影響が生じることが予想されます。

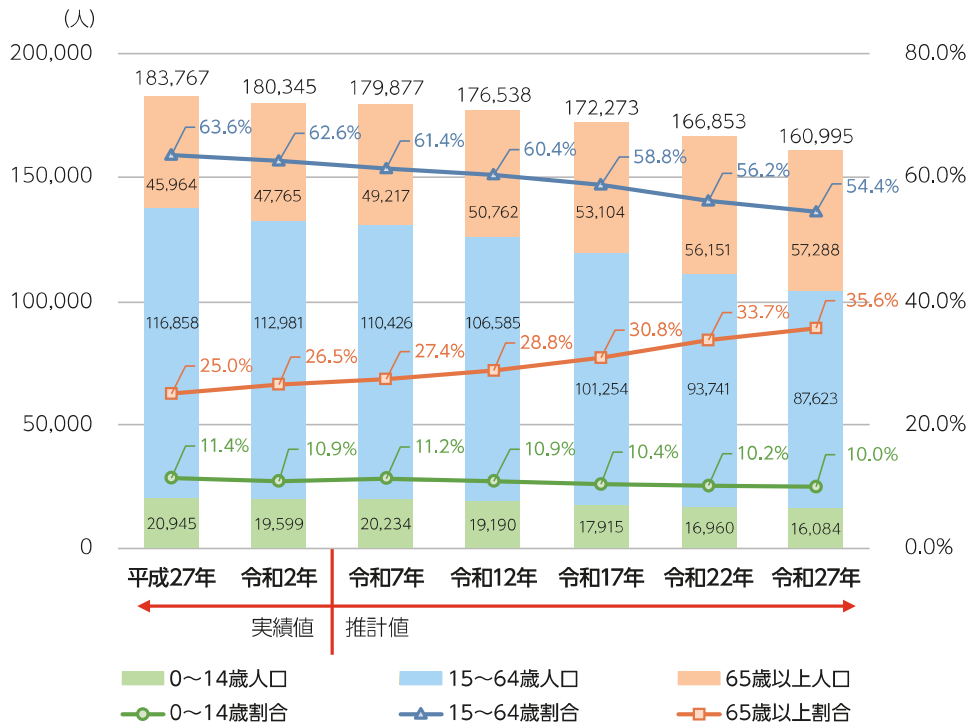
将来推計人口（人口ビジョンのベース推計を基にした区別人口）

単位：人

	実績値		推計値（人口ビジョン・新潟市総合計画2030）				
	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)	令和12年 (2030年)	令和17年 (2035年)	令和22年 (2040年)	令和27年 (2045年)
新潟市	810,157	789,275	764,481	736,106	704,120	667,965	631,510
中央区	183,767	180,345	179,877	176,538	172,273	166,853	160,995
（市内構成率）	22.7%	22.8%	23.5%	24.0%	24.5%	25.0%	25.5%
0～14歳人口	20,945	19,599	20,234	19,190	17,915	16,960	16,084
0～14歳割合	11.4%	10.9%	11.2%	10.9%	10.4%	10.2%	10.0%
15～64歳人口	116,858	112,981	110,426	106,585	101,254	93,741	87,623
15～64歳割合	63.6%	62.6%	61.4%	60.4%	58.8%	56.2%	54.4%
65歳以上人口	45,964	47,765	49,217	50,762	53,104	56,151	57,288
65歳以上割合	25.0%	26.5%	27.4%	28.8%	30.8%	33.7%	35.6%
北区	76,328	72,804	70,701	67,299	63,549	59,393	55,285
東区	137,577	134,446	127,661	121,623	114,909	107,690	100,674
江南区	68,906	67,972	64,817	62,098	58,985	55,453	51,875
秋葉区	76,843	75,069	70,736	67,319	63,694	59,790	55,965
南区	45,685	43,437	41,114	38,651	36,057	33,201	30,282
西区	162,833	160,656	158,151	154,759	150,575	145,534	140,380
西蒲区	58,218	54,546	51,434	47,818	44,077	40,052	36,054

※推計値は5歳階級毎に按分計算し積み上げているため、各区人口の合計と市全体の人口が合わない場合がある

中央区の人口推移



区別人口密度

	新潟市	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区
(人/km ²)	1,086.8	676.6	3,481.3	4,777.4	901.2	787.1	430.5	1,709.1	308.9

出典：国勢調査（R2）

【土地利用】

○中央区は、8区の中で最小の面積でありながら、都心を擁する区として、市街化と都市機能の集積が進み、その多くが住宅用地、商業用地、道路・公共公益用地として土地の高度利用が図られています。

こうした現状を踏まえ、各地区の地理的特性に配慮するとともに、地域ニーズも把握しながら、将来を見据えたまちづくりを考えることが必要です。

【将来想定される変化・課題を見据えた施策展開】

○都市化の進展や就労形態の変化などライフスタイルの変化や価値観の多様化、意識の変化なども進んでおり、今後の8年間、また、その先に起こる可能性がある社会変化に対しても積極的に対応していく必要があります。

【区政運営】

○持続可能で効果的な行政サービスを提供していくためには、少子高齢化をはじめとする人口構成の変化や施設の老朽化などを踏まえ、行政機能のさらなる効率化・適正化に加え、区民の利便性の向上などの観点が必要です。

○オンラインでの手続や、マイナンバーカードを活用した、コンビニエンスストアでの証明書交付など、社会情勢の変化に合わせた行政サービスが必要となっている一方、高齢化の進展に伴い、より丁寧な対応が必要となっています。多くの人々が利用する区役所として、やさしい日本語*を使うなど分かりやすく親切・丁寧な対応を徹底することや、窓口の利便性を高めることで、市民満足度の向上を図っていく必要があります。

中央区区役所出張所別人口（各年10月1日現在）

行政区、区役所・出張所	平成27 (2015)年 人口(人)	令和2 (2020)年 人口(人)
新潟市	810,157	789,275
中央区	183,767	180,345
中央区役所	59,379	56,656
東出張所	28,932	28,007
南出張所	95,456	95,682

(出典) 令和2年国勢調査報告書（新潟市）

住民基本台帳上の外国人住民の人口（各年9月末日現在）

	平成27年 (2015年)	令和2年 (2020年)
新潟市合計	4,778	5,601
うち中央区	1,539	1,842

出典：新潟市ウェブサイト「住民基本台帳上の外国人住民の人口」

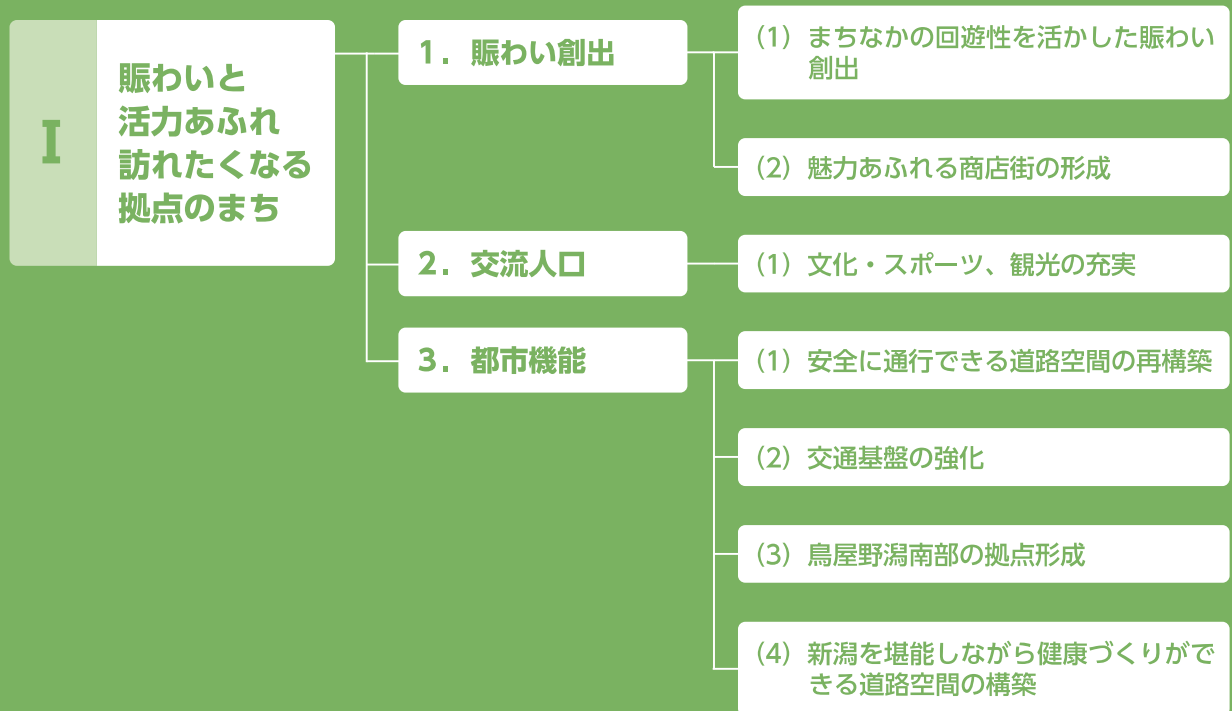


I

賑わいと活力あふれ 訪れたいくなる拠点のまち



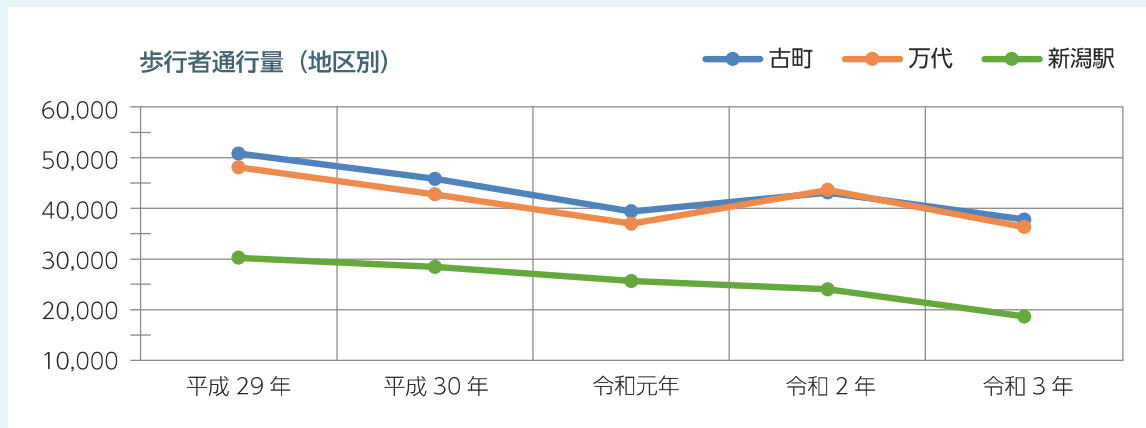
まちづくり計画体系図（再掲）



1 賑わい創出

現状／特性と課題

- 江戸時代の町割りに始まる街区やみなとまちの風情を残す建造物などが多く残っている地区、大規模な商業施設が集積し、公共交通ターミナルの機能を持つ地区、また新潟駅連続立体交差事業に伴う整備が進む地区などがあり、多くの人々の往来が盛んです。引き続き、利便性、回遊性の向上を図り、まちなか*の賑わいを創出する取組が必要になります。
- 中央区は、新潟市の経済をけん引する役割を担っていますが、その中核となる区内の商店街において歩行者通行量が減少するとともに、空き店舗が多く見られるため、地域の魅力を活かした空き店舗活用や賑わいを創出する取組を支援するなど、商店街の実情に合わせた支援や生産性の向上を推進していく必要があります。



新潟市商店街連盟「商店街歩行者通行量調査」を基に新潟市で作成

- 中心市街地における公共施設や文化施設などで来訪者や外国人定住者などに向けた情報提供の重要性が増しています。

まちづくりの方針

(1) まちなかの回遊性を活かした賑わい創出

- 既存公共交通の活用や改善に取り組み、住む人、働く人、学ぶ人、そして観光やビジネス等で訪れる人にとって快適でわかりやすい利用環境の充実や、多様な手段による回遊性の向上を図り、賑わいや活力の創出に努めます。
- 新潟駅周辺・万代・万代島・古町をつなぐ「にいがた2km*」において、高次都市機能の集積や魅力の創出、賑わいづくりを市民とともに取り組むことで、「緑あふれ、人・モノ・情報が行き交う活力あるエリア」を創造し、8区のネットワーク強化を図りながら、新潟市経済・産業の発展をけん引する成長エンジンとしていく取組を推進します。



新潟駅周辺・万代・万代島・古町をつなぐ「にいがた2km」

- 萬代橋周辺の道路や河川などの公共空間の活用や、都市開発事業を通じて、まちなかで楽しめる空間をつくるとともに、信濃川の自然や水辺を活かした景観づくりや環境整備など、官民連携による地域の賑わい創出と活性化に向けた施策を展開し、萬代橋周辺ならではの魅力的なまちなか空間の形成を目指します。
- 「古町」「西大畑」「しもまち」各地区は、みなとまち新潟の人の交流を象徴する固有の歴史・文化資産の保全や活用、新潟駅周辺・万代・万代島・古町をつなぐ都心軸では、日本海拠点都市の風格を感じる都市空間の形成、万代シティでは賑わいの創出など、まちなかや隣接する各地区特性を活かし、魅力や価値を高め、後世に継承できるよう関係者と連携しながら良好な景観の形成に取り組むとともに、楽しみながら回遊できる都市空間を創出します。
- 中央区において定着している「まち歩き」を関係団体と連携するなどさらに進化させ、地域の魅力の発掘及び区内外への発信に努めます。
- 来訪者や外国人定住者などの利便性の向上や中央区の魅力のアピールのために、中心市街地における公共施設や文化施設におけるサインの活用など誰にでもわかりやすい情報提供に努めます。



萬代橋と信濃川やすらぎ堤



東大通と新潟駅



案内サイン

(2) 魅力あふれる商店街の形成

- 商店街の新たなイメージづくりに向けた取組を支援し、多くの人が行ってみたいとなる、歩いてみたいとなるまちを目指します。
- 商店街が、住む人、働く人、学ぶ人、そして観光やビジネス等で訪れる人が求める多様なニーズに応え、住民の暮らしや利用する人を支える視点を持った場として持続、発展できるよう、地域の要望を踏まえた支援に努めます。



万代シティ

2 交流人口

現状／特性と課題

- 新潟市は大規模な国際会議や学会、展示会などが開催される都市であり、その多くが開催される中央区には国内外から多くの参加者が訪れ、滞在します。外国人を含めた来訪者が心地よく催しに参加でき、滞在を楽しめる環境整備と、おもてなしの雰囲気づくりが必要です。
- 中央区は、信濃川や鳥屋野潟、日本海などの豊かな自然環境に恵まれているほか、新潟スタジアム（ビッグスワン）や朱鷺メッセ、新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）、新潟市アイスアリーナ、新潟市水族館（マリニピア日本海）など、県や市を代表する文化・スポーツ・観光施設があり、市内外から多くの人々が集い、賑わっています。今後、イベント内容の充実、施設間の連携、市内外へのPRなどにより、さらなる交流人口*の拡大を図ることが必要です。
- 県内有数の水産物の水揚げ基地であるとともに新潟港の賑わい・交流の中心となっている万代島地区において、賑わい創出と活性化に向けた取組が必要です。



新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）

まちづくりの方針

(1) 文化・スポーツ、観光の充実

- 江戸時代から続く町割りや花街（かがい）、歴史的な建造物など中央区の魅力が区民や市内外の観光客にまち歩きを通して伝えるとともに、信濃川をめぐる水上シャトル便など中央区の魅力的な資源を活用した観光客の誘致を図り交流人口の増加を目指します。
- 中央区の文化・スポーツ資源を区民が利用しやすいような環境整備に努めるとともに、市街地に隣接してひろがる豊かな自然環境などの特色ある観光資源も活用しながら、大規模な文化・スポーツイベントなどを誘致することのできるまちを目指します。



ビッグスワン



マリニピア日本海

- 万代島地区について、関係者と連携しながら、アクセス機能の強化をはじめとして賑わい創出を目指した取組を検討していきます。
- 万代地区の「新潟市マンガ・アニメ情報館」や古町地区の「新潟市マンガの家」を中心に「マンガ・アニメ」で賑わうまちを目指して、「にいがたアニメ・マンガフェスティバル」などのイベントと連携した関連事業の内容の一層の充実に努めるなど、文化の継承・発展、文化産業の発展と交流人口の増加を目指します。



「マンガ・アニメのまちにいがた」サポートキャラクター
花野古町 & 笹団五郎

3 都市機能

現状／特性と課題

- まちなかでは、歩行者と自転車のいずれの通行量も多く歩行者の安全を第一として、歩行者と自転車が安心安全に通行できる道路空間の再構築が必要です。
- まちなかの歩道では、路上駐輪により歩行者の通行の支障になっているところもあり、駐輪場の確保や、駐輪マナーの向上が課題となっています。
- 美しいまちなみを形成し、都市景観の向上を図るとともに、ユニバーサルデザイン*に基づく歩行空間の整備が必要です。
- 新潟駅周辺地区においては、鉄道によって市街地が南北に分断され、鉄道を横断する交通の混雑などの問題があります。都市機能強化に向け、立体交差道路や新潟駅新万代広場などの供用に向けた新潟駅周辺整備の着実な推進が重要となっています。
- 市内中心部及び中心部と郊外を結び、多くの路線バスが運行されています。新潟駅直下バスターミナルの整備により、南北市街地がつながることから、バス路線も大きな転換期を迎えます。地域ニーズに応じた生活交通の確保に向けた検討を行うとともに、中央区の各地域において、誰もが公共交通などで移動しやすい環境の整備に努める必要があります。
- 豊かな自然を残す鳥屋野潟や高速交通網の結節点に隣接する鳥屋野潟南部地区約270ヘクタールにおいて、優れたアメニティ空間の創出や新しい都市機能、民間活力の導入による開発推進が必要です。
- 健康づくりやレジャーに最適な歩行者、自転車の専用コースが整備されましたが、利用者からコースが分かりづらく歩行者と自転車が錯綜し危険などの改善要望や指摘があることから、これを解決するとともに、更なる価値を増していく必要があります。



工事が進む新潟駅新万代広場

まちづくりの方針

(1) 安全に通行できる道路空間の再構築

- ユニバーサルデザインの考えに基づいた整備を推進し安全な歩行空間を確保するとともに、都市景観及び都市防災機能の向上に努めます。
- まちなかにおいて、歩行者と自転車が安心安全に通行できる道路空間の整備・活用や駐輪場の確保など、人中心のウォークアブルな空間*形成に努めます。



人中心の空間づくり



自転車通行帯

(2) 交通基盤の強化

- 新潟駅周辺地区の整備を進めるとともに立体交差道路など主要道路の整備を進め、道路ネットワークの強化を図ります。
- 誰もが、自動車へ過度な依存をせずとも、それぞれのライフスタイルや状況に合わせて自転車や公共交通機関などの多様な手段を組み合わせることで移動しやすい環境の実現と持続可能な公共交通ネットワークの構築に向けた検討に取り組めます。また、公共交通の利用促進とまちなかの活性化に向けて、デジタル技術を活用した情報の提供と情報連携の充実、モビリティ・マネジメント*による意識啓発に取り組めます。



市内を走るバスとシェアサイクル

(3) 鳥屋野潟南部の拠点形成

- 鳥屋野潟南部地区における住居・交流拡大ゾーンの開発促進に向けたスムーズな手続・調整を行うなど、複合拠点としての整備を支援します。

(4) 新潟を堪能しながら健康づくりができる道路空間の構築

- ぐるりん新潟島（新潟島一周自転車道）の利便性・安全性の向上を継続して図るとともに、区民をはじめ、市内外の方々がシェアサイクルなどを利用して気持ち良く街に出かけ、新潟を堪能して気軽に健康づくりができる環境整備に努めます。



ぐるりん新潟島



距離標（例）

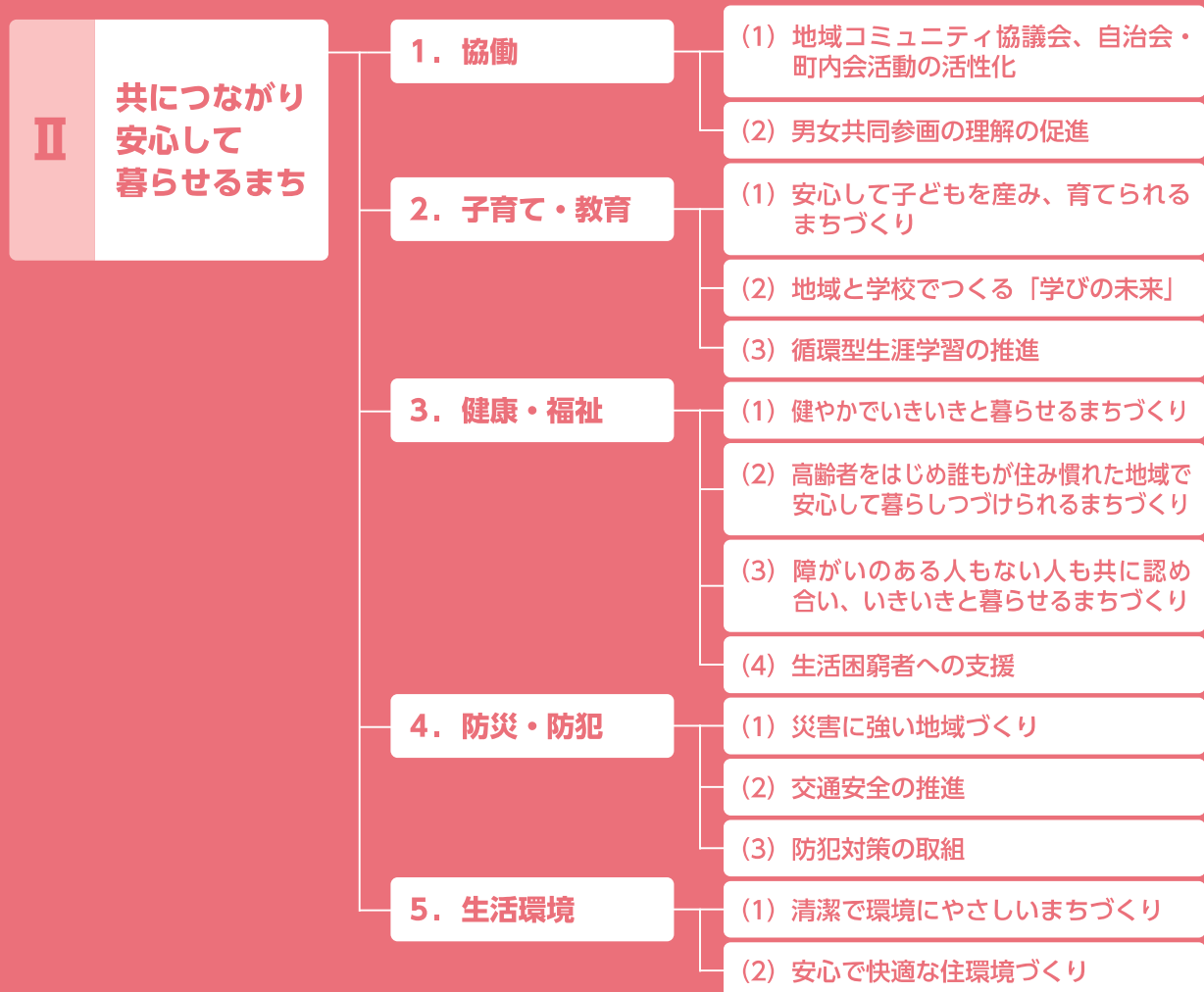


II

共につながり 安心して暮らせるまち



まちづくり計画体系図（再掲）



1 協働

現状／特性と課題

●都市化の進展や核家族化、就労形態の変化などライフスタイルの変化や価値観の多様化などにより、地域の連帯感が希薄化している一方で、防災や福祉など公的サービスの多様化に伴い、地域活動の重要性が高まっているため、活動の主体となる地域コミュニティの活性化を図っていくことが必要です。



「持続可能な地域づくり支援事業」研修会

●人口減少・少子高齢化の進行に伴い、住民自治の礎となる自治会・

町内会や地域コミュニティ協議会*における担い手不足が現在よりさらに進む可能性があるなか、持続可能な住民自治を実現するためには、活動内容や管理運営体制の見直し、民間活力、地域外人材の活用などが重要になってきます。

●地域が持続可能な形でコミュニティ活動に取り組むうえで、活動に必要な施設や場所を十分に確保することができていない地域コミュニティ協議会があり、活動拠点の確保が課題となっています。

●一人一人の人権を尊重し、固定的な性別役割分担意識や性差に関する偏見・固定観念、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）*のない社会の実現に向けた取組が必要です。

まちづくりの方針

（1）地域コミュニティ協議会、自治会・町内会活動の活性化

●子どもや若い世代へ地域防災や福祉活動への参加を促すなど、将来の地域活動の担い手としての意識を醸成するとともに社会性の向上を図っていきます。

●地域住民が主体となり様々な取組を行う自治会・町内会や地域コミュニティ協議会の活動や団体運営を支援します。

●各種団体の情報交換の促進や研修の実施などにより、地域コミュニティ協議会の人材育成を推進します。

- 地域活動の拠点については、施設の借上げや整備などの助成を行うとともに、公共施設の再編による施設の空きスペースの活用を含めて検討するなど、財産経営の推進にも配慮しながら必要となる拠点機能の確保を図っていきます。

(2) 男女共同参画の理解の促進

- 誰もが多様性を認め合いながら、一人一人の人権を尊重し、性別による固定的な役割分担意識やアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）の解消に向け、意識啓発と理解促進に取り組みます。



男女共同参画事業

2 子育て・教育

現状／特性と課題

- 中央区は、子育て世帯に占める核家族の割合が高く、転入する子育て世帯も多いことから、身近な支援を受けづらい場合があり、子育てに不安や悩みを抱える世帯の孤立化が課題となっています。このため身近な地域において子どもの健やかな成長を支える仕組みづくりや、ネットワーク（家庭・企業・地域・行政）の強化が必要です。

表：6歳未満の世帯員がいる世帯

区名	世帯数 ※ A	6歳未満の世帯員がいる世帯 B	6歳未満の世帯員がいる核家族世帯 C	6歳未満の世帯員がいる世帯の割合 B/A	6歳未満の世帯員がいる世帯のうち核家族世帯の割合 C/B
北 区	27,344	2,127	1,555	7.8%	73.1%
東 区	57,417	4,664	3,991	8.1%	85.6%
中央区	90,748	5,828	5,330	6.4%	91.5%
江南区	24,847	2,417	1,937	9.7%	80.1%
秋葉区	27,945	2,478	1,965	8.9%	79.3%
南 区	14,871	1,382	918	9.3%	66.4%
西 区	68,883	5,452	4,696	7.9%	86.1%
西蒲区	18,642	1,461	907	7.8%	62.1%
新潟市合計	330,697	25,809	21,299	7.8%	82.5%

※施設等の世帯（寮・寄宿舎の学生・生徒など）を除く。

資料：国勢調査（R2）

- 全ての子どもが、かけがえのない、人格と人権を持った一人の人間として尊重され、今を豊かに生き、成長発達する権利を有していること、そして、大人がこれを保障する責務があることを一人一人が理解することが重要です。
- 市立の小学校、中学校、中等教育学校及び特別支援学校でコミュニティ・スクール*の取組を推進しています。これまでの地域と学校パートナーシップ事業*によって築いてきた土台の上に、さらに地域と学校の関係の深化を進め、「地域総がかり」で地域の将来を担う子どもの学びと成長を支えていくことが重要です。
- 人生100年時代を迎え、区民が豊かな人生を送るためにも、生涯学習との関わり方が重要となっています。

まちづくりの方針

(1) 安心して子どもを産み、育てられるまちづくり

- 子育てについての学習機会の提供や親同士の仲間づくりを支援するなど、子育て中の親などの不安や負担の軽減を図っていきます。
- 安心して子どもを産み・育てることができるように、身近な地域で見守り、子育てする取組を支援し子育てしやすい環境づくりに努めます。
- 生まれる前から、子育てに対する不安を軽減し、安心して子どもを産み・育てることができる意識を高めるとともに、男女ともに取得しやすい育児休業制度や男性の育児参加などを積極的に推進するための啓発に努めます。
- 子育ての先輩である祖父母の育児参加を促進することにより、家族の支え合い・助け合いによる子育て支援の向上に取り組みます。
- 中央区内の子育て支援施設やイベント情報を発信し、子どもとともに子育て中の親も楽しく、のびのびと子育てできる環境づくりに努めます。
- 全ての子どもが豊かな子ども期を過ごすことができるよう、新潟市子ども条例の趣旨を、権利の主体である子どもたちのほか、幅広い市民への普及・啓発に努めます。
- 児童虐待防止に向け、中央区内の関係機関や施設などとの連携により、家庭支援に努めます。



沐浴体験のようす

(2) 地域と学校でつくる「学びの未来」

- 「地域とともにある学校」を目指し、学校と地域が共通の目標をもって、学校と社会教育施設、家庭、地域をつなぐネットワークづくりをさらに進め、子どもの豊かな成長を支える取組の推進に努めます。
- コミュニティ・スクールの推進に向け、学校と地域との良好な関係づくりのため、地域と学校パートナーシップ事業などへ地域住民の参画を促進し、学校教育活動を支援する仕組みづくりに努めます。



学校運営協議会

(3) 循環型生涯学習*の推進

- 区民の主体的な学習活動を推進するため、時代や社会の変化並びに学習ニーズ、地域課題に応じた多様な学習企画や学習情報の提供に努めます。
- 区民が学んだ知識や成果を教育活動や地域に活かすために、地域課題の解決や地域の活性化を推し進める人材を育成するとともに、学校や地域などと連携しながら、その活動の場を支援します。

II

共につながり
安心して暮らせるまち

3 健康・福祉

現状／特性と課題

- がん、心疾患、脳血管疾患など生活習慣病関連疾患の死因に占める割合は依然高くなっています。健康でいきいきとした生活を送るためには、特定健診、がん検診の受診率向上の取組をはじめ、食生活改善推進委員や運動普及推進委員などのボランティアや地域コミュニティ協議会などと連携し、健康づくりに取り組むことが必要です。
- こころの健康を保つための適切な睡眠、休養、ストレスとの付き合い方について、情報発信と普及啓発を行うことが必要です。
- 中央区の高齢化率は、市平均より低いものの、小学校区単位では、市内でも高齢化率の高い地域があります。住民はもとより、地域内事業所なども含めた地域社会全体で医療、介護、予防、住まい、生活支援が一体的に提供される地域づくりを進めていくことが必要です。

表：65歳以上の割合

北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	新潟市合計
32.0%	29.2%	26.5%	30.3%	32.1%	31.7%	29.0%	35.0%	29.7%

資料：国勢調査（R2）

- 区民の支援ニーズの中には、複数の生活上の課題を抱え複雑化・複合化したものもあります。介護や障がいなど分野ごとの支援だけでは対応が難しい場合もあるため、包括的に支援する体制の整備が必要です。

- 障がい者の就労支援事業所や地域活動支援センターなど中央区の通所施設は、公共交通の利便性が高いこともあり、他区の障がい者も利用しています。また、他区と比較しても障がい者用グループホームが少ないという現状もあり、障がい者が住み慣れた地域で住み続けることができるよう、施設の開設を関係機関に働きかけるとともに地域の理解を進めていくことが必要です。

- 生活困窮世帯の方がより安定した生活を送ることができるように、中央区に開設した職業相談コーナーを活用し、市が提供する福祉サービスと一体となって就労支援を図っていくことが必要です。

- 生活困窮世帯においては、学習機会の不足からその子どもまで貧困に陥るケースがあります。そのような事態を防ぐため、現在行っている学習支援を継続実施し、学習習慣の定着や学力の向上を図ることが必要です。

障がい者グループホーム定員数と人口比

比率：千分率（‰）

	棟数	定員合計	人口	比率（‰）
北	7	80	72,100	1.11
東	10	126	133,943	0.94
中央	9	134	173,482	0.77
江南	5	51	68,233	0.75
秋葉	8	116	75,642	1.53
南	5	83	43,433	1.91
西	14	232	154,862	1.50
西蒲	3	19	54,773	0.35
合計	61	841	776,468	1.08

資料：新潟市

※棟数と定員合計は、令和4年4月1日現在
※人口：令和4年3月末住民基本台帳

まちづくりの方針

（1）健やかでいきいきと暮らせるまちづくり

- がん、心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病の罹患（りかん）率を下げ、死亡率を減少させるために、区民の禁煙や適正飲酒、適度な運動、食生活改善などの取組を支援します。また、特定健診やがん検診、歯科検診の定期的な受診を勧め、早期発見、早期治療につなげるように努めます。

- 健康でいきいきとした生活を送るために、介護予防や健康教育などに取り組みます。また、運動習慣のない高齢者の介護予防や生活習慣病予防に対する地域主体の活動を支援し、区民の健康づくりに努めます。
- こころの健康を保つための適切な睡眠、休養、ストレスとの付き合い方について、情報発信と普及啓発に努めます。



健康づくり



生活習慣病予防（食生活改善）の啓発

（2）高齢者をはじめ誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしつつづけられるまちづくり

- 高齢者の社会的孤立を防ぎ、地域で安心して生活できるまちづくりを進めるための支援策について地域コミュニティ協議会や社会福祉協議会などと協働し、高齢者を地域で支えるシステムの深化・推進に努めます。
- 地域の課題やニーズを把握し、地域主体の支え合い、助け合いの関係づくりに努めることで、各地域がそれぞれの地域資源を活かして、交流の場づくりや見守り活動、買い物やごみ出しなどの生活支援活動を行うことができるよう支援します。
- 区民の複雑化・複合化した支援ニーズに応えるため、様々な機関が協働し、包括的に支援する体制の構築に努めます。

（3）障がいのある人もない人も共に認め合い、いきいきと暮らせるまちづくり

- 障がいのある人もない人も一人一人が大切にされるまちづくりを進めます。
- 特別支援学校との連携を密にして、卒業後の就労支援事業所などの施設利用希望者を早くから把握し、スムーズな施設利用ができるよう努めます。
- 障がい者グループホームの整備など、住みなれた地域での生活の拠点づくりを進めます。

（4）生活困窮者への支援

- 中央区に設置されている職業相談コーナーの活用の呼び掛けや、ハローワーク新潟と福祉事務所がより一層連携を密にして、生活困窮者の就労意欲や要望を把握することで、早期就労に向けた支援を行っていきます。
- 貧困の連鎖を防ぐために、継続的な学習機会及び居場所を提供することで、学習習慣の定着を図るほか、学習支援員等の継続した親子への関わりにより、学習環境や生活習慣の改善に必要な支援を行っていきます。

4 防災・防犯

現状／特性と課題

- 災害が発生した場合には、自主防災組織*による地域防災力が重要になるため、自主防災組織の強化や区民一人一人が適切な行動をとれるよう意識の向上が必要です。
- 人口集積に対応した大規模災害への備えが求められるとともに、災害時の被害を軽減させるために自主防災組織の活動の効率化を図ることが必要です。
- 超高齢社会における避難行動には、地域と要支援者の関係づくりを進めることが重要です。
- 計画降雨を超える近年の豪雨において、施設整備だけで浸水被害を防止するには限界があるため、自助・共助対策の促進なども含めたハード・ソフト両面からの総合的な浸水対策が必要です。
- 地震や台風などによる電柱倒壊、道路閉塞を排除し災害時における緊急車両などの円滑な通行を確保するとともに、災害時に安全な歩行空間の確保が必要です。
- 様々な都市機能が集中し、交通量や人口が多いため、交通事故発生件数が新潟市全体の約3割を占めています。また、近年は、道路交通法改正など交通環境を取り巻く状況も変化しており、交通安全に対する啓発と区民意識の一層の向上が求められます。
- 犯罪の発生件数は、年々減少していますが、高齢者を狙った特殊詐欺が手口を変えて発生しているほか、繁華街では違法な客引きも依然として見られるため、引き続き、防犯活動や意識啓発を進めていくことが必要です。
- 子どもの犯罪被害の防止や、不審者対策として、子ども自らの判断による危険回避や、地域による見守り活動などの対策が必要です。



新潟市防災マスコットキャラクター「ジージョ・キージョ」

まちづくりの方針

(1) 災害に強い地域づくり

- 地域が自主的に防災力の強化を進められるよう、地域の防災リーダーなどの育成を図るとともに、自主防災組織による防災訓練を実施するほか、防災装備の充実を図ります。
- ポンプ場や雨水管などの施設整備に併せ、防水板設置等工事への助成を行うなど、ハード・ソフト一体となった総合的な浸水対策の取り組みにより、被害の最小化を目指します。
- 緊急輸送道路の無電柱化などに取り組み、都市景観及び都市防災機能の向上に寄与するとともに、安全な歩行空間の確保に努めます。
- 高齢化が進展するなか、避難行動要支援者が増加しているため、要支援者と支援者との関係づくりを進めることで、避難行動要支援者対策を図ります。



地域での連携防災訓練



無電柱化された道路

(2) 交通安全の推進

- 地域と警察及び交通安全関係団体と連携し、各世代における段階的かつ体系的な交通安全教育、啓発活動を行い交通事故にあわない、起こさないという意識の醸成を図ります。



交通安全運動

(3) 防犯対策の取組

- 高齢者を狙った特殊詐欺の予防に関する啓発活動を一層充実させるなど、防犯意識の向上に努めます。
- 地域住民や警察、行政機関が協働して防犯力の高い地域社会を作っていくとともに、防犯ボランティア団体によるパトロールなど地域住民により自主的に行われている防犯活動と連携し、子どもが被害にあう犯罪の防止や路上での違法な客引きなどの対策を進めます。



防犯に関する啓発活動

5 生活環境

現状／特性と課題

- 自然環境にやさしい資源循環型社会の実現に向け、3R（ごみの発生抑制、再使用、再生利用）の考え方にに基づき、ごみの減量化を積極的に推進することが必要です。
- たばこの吸い殻や空き缶などのぼい捨て、路上喫煙制限区内での路上喫煙は新潟市の条例で禁止されています。ごみの持ち帰りや喫煙マナーの啓発をどのように進めていくかが課題となっています。
- 新潟市では空き家が増加しています。管理不全な空き家は防災、防犯、衛生などの面で問題となるため、関係部署と連携した対応が必要です。

まちづくりの方針

（1）清潔で環境にやさしいまちづくり

- 資源循環型社会の実現に向けたごみと資源の分別の徹底、ごみのぼい捨て禁止など、区民の環境美化意識やマナーの向上のための啓発活動に努めるとともに、地域コミュニティ協議会、自治会・町内会や様々な団体と連携・協働した環境美化活動を推進します。

（2）安心で快適な住環境づくり

- 住宅・建築物の適正な維持管理の呼びかけに努めるとともに、管理不全な空き家について、関係部署と連携して対応します。



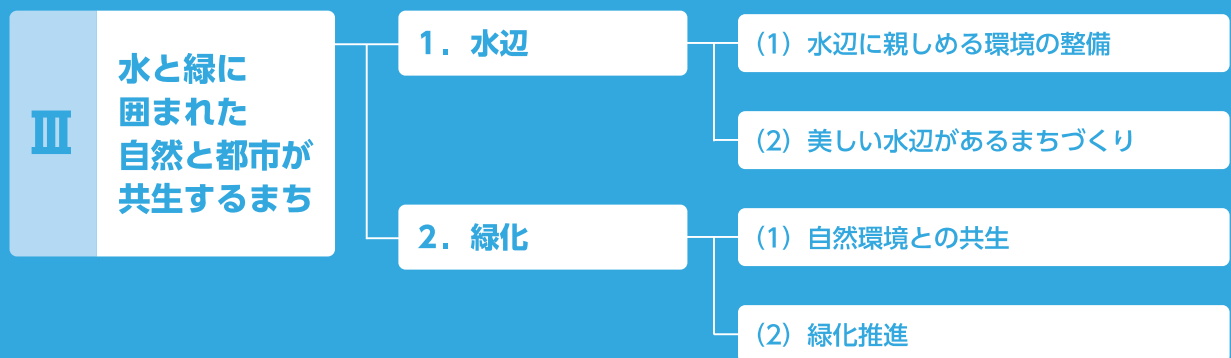
環境美化活動

III

水と緑に囲まれた 自然と都市が共生するまち



まちづくり計画体系図（再掲）



1 水辺

現状／特性と課題

- 中央区は都心部を流れる信濃川をはじめ、鳥屋野潟や日本海などの豊かな水辺に恵まれています。これらの水辺環境を活かした賑わいの創出や魅力を高める取組を行い、次世代に引き継いでいくことが必要です。
- 中央区は「みなとまち新潟」の発展を支えてきた日本海や信濃川と様々な都市機能が集積するまちなかが近接・共生する地域であり、水辺とまちとの更なる一体感を醸成するため、こうした特徴を活かした取組を進めることが必要です。
- 新潟市は国内で初めての「ラムサール条約*湿地自治体認証制度に基づく認証」を受けた自治体です。
- 中央区は市街地に隣接し、貴重な自然環境を残す鳥屋野潟を有しています。市街地に隣接するという特徴を活かせるよう鳥屋野潟の環境保全に取り組むとともに、豊かな水辺の活用について県と連携して進めていくことが必要です。
- 鳥屋野潟湖畔などへのごみの不法投棄など、まちの美観を損ねている事例があることから、マナーやルール遵守の啓発や環境美化活動などの取組が必要です。
- 日本海に面した美しい海岸が連なっている中央区においては、関屋浜と日和山浜に海水浴場が設置されており、市内外から多くの遊泳者が訪れています。今後も遊泳者の安全確保に加え、魅力のある水辺環境の整備が必要です。
- 護国神社周辺は、「日本の白砂青松100選」に指定された景勝地であり、海岸、砂浜など美しい水辺の環境を守っていくことが必要です。



日本海に沈む夕日

まちづくりの方針

(1) 水辺に親しめる環境の整備

- 身近に水を感じ、気軽に水に親しめるよう、情報発信や機会づくりに努め、水辺の利活用を推進するとともに、新たな魅力づくりと賑わいの創出を図り、大切な水辺環境を次世代に引き継いでいきます。
- 信濃川の自然や水辺を活かした景観づくりや環境整備など、官民連携による地域の賑わい創出と活性化に向けた施策を展開し、萬代橋周辺ならではの魅力的なまちなか空間の形成を目指します。
- 関屋浜、日和山浜海水浴場の安全確保に努め、利用促進を図るとともに、国・県などの関係行政機関や民間企業、地域団体など多様な主体と連携を図りながら、人々が集い、魅力的で賑わいのある空間として美しい浜辺と隣接する区域の環境整備に努めます。

(2) 美しい水辺があるまちづくり

- 鳥屋野潟や海岸での清掃活動を積極的に支援するほか、地域コミュニティ協議会、自治会・町内会や様々な団体と連携・協働した環境美化活動や環境啓発活動を推進します。



万代テラスのにぎわい



日和山浜海水浴場



鳥屋野潟一斉清掃

III

水と緑に囲まれた
自然と都市が共生するまち

2 緑化

現状／特性と課題

- 区内には、市街地に隣接して、鳥屋野潟や西海岸公園など豊かな自然が広がっています。これらの自然と共生し、多様で美しい自然環境を将来に引き継ぐことが必要です。
- 新潟市の中心部を流れ、海に注ぐ信濃川において、国で実施する河川改修事業に合わせて川辺の散策などを可能とする緑地整備を一体的に実施してきました。引き続き、安心・安全の新たな機能を付加した安らぎとゆとりを与えてくれる空間の整備が必要となります。
- 西海岸公園には、西船見町から関屋地区までの海岸沿い約5kmに渡って広がるクロマツ林が現存し、まち歩きから少し足を延ばして森林浴を楽しめる自然豊かな環境となっており、今後も着実な保全や整備の推進を図ることが必要です。
- 汐見台周辺の海岸林は林帯幅が狭く落葉樹が中心であり、季節風の影響が最も大きい冬季の防風・防砂効果に対する十分な機能を満たすことができないため、効果を高める整備など、住環境の改善が課題となっています。
- 「日本の都市公園100選」にも選ばれた日本で最初の都市公園の一つである白山公園や、春になると周囲約8kmに咲き誇る桜で多くの人で賑わう鳥屋野潟周辺の魅力を、いかに広く発信し活用していくかが課題となっています。
- 緑あふれ、潤いあるまちづくりを進めるため、区民一人一人の身近な生活空間の緑化を図ることが必要です。
- まちなかでは、他の地区と比較して緑が少ない状況となっています。都心部が新しく生まれ変わっていく中、都市部の景観や魅力をより向上させるためにも緑豊かな都市空間の実現が必要 です。



信濃川やすらぎ堤

まちづくりの方針

(1) 自然環境との共生

- 美しい自然環境を将来に引き継ぐため、地域や関係団体と連携して、保全に取り組むとともに、自然環境の賢明な利用につなげていきます。
- 区民が水に親しみ、安らぐことができる憩いの場として、信濃川やすらぎ提などの水辺空間の整備を引き続き進めていきます。
- 約5kmに渡って広がるクロマツ林があり、まち歩きから少し足を延ばして森林浴が楽しめる西海岸公園について、緑豊かな環境整備の推進に努めます。
- 防風・防砂対策として、市営汐見台住宅跡地の海岸林再生の取組を契機に他地区への展開を図り、新潟島の海岸林の必要性・重要性を広く区民に周知するとともに、区民とともに維持していく活動を促進します。
- 「日本の都市公園100選」にも選ばれた白山公園や、春に周囲約8kmに桜が咲き誇る鳥屋野潟の周辺などの整備を進めるとともに、中央区における自然の魅力をいかに発信し活用していくか検討します。



白山公園



鳥屋野潟の桜

Ⅲ

水と緑に囲まれた
自然と都市が共生するまち

(2) 緑化推進

- 緑豊かな都市空間実現のため、区民や民間事業者などと連携して街路樹の保全や民有地を含めた新たな緑化を促し、都市の景観や魅力の向上に努めます。
- 地域の活動団体や区民と協働で季節の草花を植え、来訪者が楽しめる空間づくりに取り組みます。
- 区民一人一人に緑化意識を啓発し、緑あふれ、潤いある都市の環境及び景観づくりを推進します。



チューリップとやすらぎ提



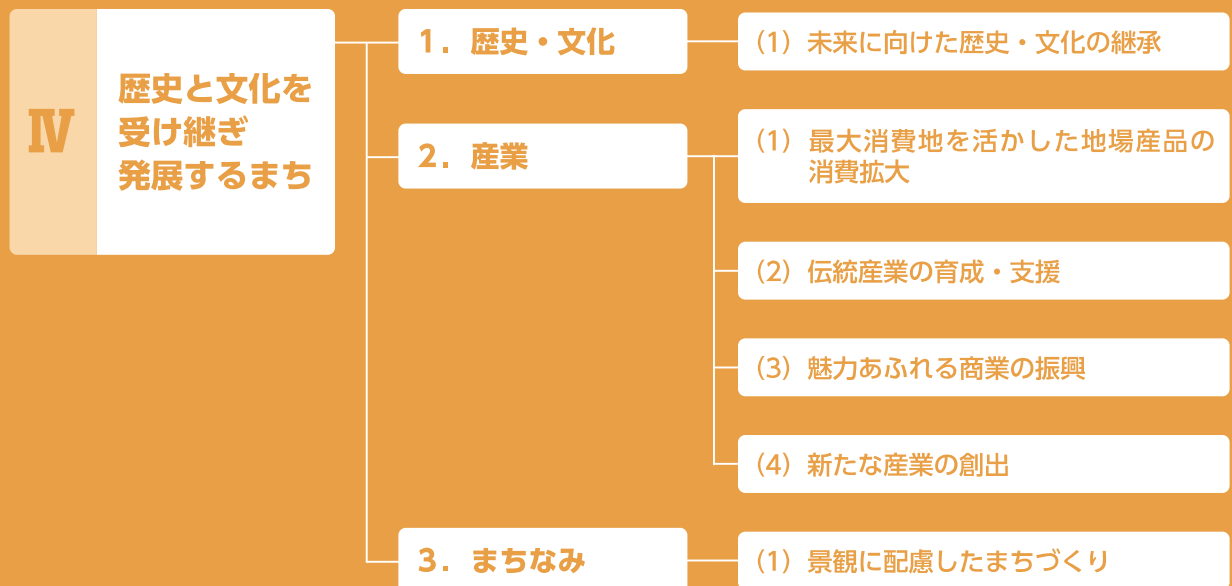
緑豊かな都市空間

IV

歴史と文化を受け継ぎ 発展するまち



まちづくり計画体系図（再掲）



1 歴史・文化

現状／特性と課題

- しもまち地区や沼垂地区など、中央区にはみなとまち新潟を代表する様々な歴史的建造物や貴重な文化が数多く残されています。開港5港の一つとしてのみなとまち新潟の歴史・文化の魅力を区内外へ発信していくとともに、小中学生に伝えるなど次世代へ語り継いでいくことが重要です。
- 中央区は、古町芸妓（ふるまちげいぎ）をはじめ古くから発展してきたみなとまちの歴史や料亭・発酵食などの食文化など多くの魅力を持っています。区民が誇りと愛着をもってまちに暮らし、多様な世代が地元の歴史や魅力について自信をもって語るができるよう、地域や学校で歴史や文化を学ぶ環境づくりが必要です。
- 中央区には、マンガやアニメに関する施設が複数あるため、これらの施設や人材などの資源を広く活用し、マンガ・アニメ文化を市内外に広めていく取組の充実が課題になっています。



北前船イメージ写真



旧小澤家住宅



みなとびあ

まちづくりの方針

(1) 未来に向けた歴史・文化の継承

- 若い世代にみなとまち新潟の歴史・文化を継承するため、学校における地域の歴史やまちなか探検などの授業をきっかけに、地域住民の協力を得ながらさらに理解を深め、子どもたち自らの歴史・文化となるよう努めます。
- 自分たちの暮らすまちに誇りを持つことができるよう、地域の歴史や文化にふれあい、学ぶことのできる機会の提供に努めます。
- 中央区において定着している「まち歩き」を関係団体と連携するなどさらに進化させ、地域の魅力の発掘及び区内内外への発信に努めます。
- 全国屈指の花街として、特に江戸時代後期から明治時代中頃まで繁栄を極めた古町花街を彩る古町芸妓や料亭文化を保護・育成するとともに、PRに努めます。
- 万代地区の「新潟市マンガ・アニメ情報館」や古町地区の「新潟市マンガの家」を中心に「マンガ・アニメ」で賑わうまちを目指して、「にいがたアニメ・マンガフェスティバル」などのイベントと連携した関連事業の内容の一層の充実をめぐるなど、文化の継承・発展、文化産業の発展と交流人口の増加を目指します。



「えんでこ」まち歩き



新潟市マンガの家

2 産業

現状／特性と課題

- 中央区は、市内最大の食糧消費地であるため、新潟市の食と花の銘産品である女池菜をはじめ地場産農産物の認知度を高めることで消費拡大を図り、地産地消の一層の推進に努めるなど、農水産業の活性化を図ることが必要です。
- 中央区は、北前船の寄港地として多くの地域と文化的交流が行われ、栄えてきました。中でも新潟漆器は、国の伝統的工芸品に指定され、伝統的な地場産業へと発展しましたが、引き続き区内外への魅力発信していくことが必要です。
- 中央区では、古くから酒、みそ、しょう油、こうじ、漬物など発酵食品の店や蔵・工場などが多く、こうした中央区の伝統的な加工食品を活用した食文化の魅力発信が課題となっています。
- 江戸時代に創業し、現在も老舗料亭として格式を誇る「行形亭（いきなりや）」と「鍋茶屋（なべぢゃや）」は、いずれも国の登録有形文化財で、芸妓の歌と踊りや四季折々の日本料理で人々をもてなし、新潟の料亭文化を守ってきました。こうした由緒ある古町芸妓と料亭文化を保護・育成していくことが必要です。
- 中央区の主な商業地である古町地区・万代地区・新潟駅周辺地区は豊かな市民生活の実現や新潟市の経済をけん引する中核としての役割を担っていますが、歩行者数や小売販売額が減少していることから、活性化に向けた対策が必要です。
- にいがた2kmエリアを人・モノ・情報が行き交う活力あるエリアとして経済・産業の発展をけん引する成長エンジンとするための取組が必要です。



古町芸妓と料亭

まちづくりの方針

(1) 最大消費地を活かした地場産品の消費拡大

- 区内における農産物の生産量は少ないものの、中央区は市内最大の消費地であるため、新潟市産農産物の活用や地産地消の推進に努めます。



白山市場

(2) 伝統産業の育成・支援

- 中央区の伝統的工芸品産業である新潟漆器や食文化の特徴である発酵食品の魅力を区内外に向けてPRしていきます。
- 全国屈指の花街として、特に江戸時代後期から明治時代中頃まで繁栄を極めた古町花街を彩る古町芸妓や料亭文化を保護・育成するとともに、PRに努めます。
- 伝統産業の持つ魅力を他分野ともつなぎ合わせながら育成・支援に努めます。



新潟漆器



みそ造り

(3) 魅力あふれる商業の振興

- きめ細かなサービスの提供やオンリーワン商品の開発・販売、新たな魅力ある店舗の開業、歴史・文化を活用した取組やイベントなど商店街の活性化に向けた取組を支援することにより、魅力あふれる商業の振興に努めます。

(4) 新たな産業の創出

- にいがた2kmエリアを産業DX*、ICT*推進の先進エリアとしての取組を強化するほか、AI*やIoT*、5G*をはじめとした先端技術の活用を促進するなど、多種多様な企業や人材が協業・共創するための環境を整え、新規事業の創出の支援に努めます。

3 まちなみ

現状／特性と課題

●西大畑地区には、江戸時代から続く料亭「行形亭」や明治期に建築された「北方文化博物館新潟分館」、大正期に建築された「旧齋藤家別邸」、大正から昭和初期に流行した洋館付住宅などが残っており、歴史的価値の高い建造物が建ち並ぶまちなみとなっています。このまちなみを構成する歴史的建造物の保全を図り、歴史的な佇（たたず）まいを活かした風情ある景観を創り出していくことが必要です。



旧齋藤家別邸

●新潟を代表する繁華街の一つである「古町花街」地区の骨格を形成し、懐かしいまちなみの風情を今に留めている小道を、歴史的景観に配慮しながら、賑わいあるまちづくりに向けて整備を進めることが必要です。

●古くから受け継がれてきたみなとまち新潟の風情と政令市新潟の高度な都市機能が融合したまちなみづくりを進めることが必要です。



江戸時代の町割りに始まるまちなみ



石畳の鍋茶屋通り

まちづくりの方針

(1) 景観に配慮したまちづくり

●「古町」「西大畑」「しもまち」各地区は、みなとまち新潟の人の交流を象徴する固有の歴史・文化資産の保全、新潟駅周辺・万代・万代島・古町をつなぐ都心軸では、日本海拠点都市の風格を感じる都市空間の形成、万代シテイでは賑わいの創出など、各地区特性を活かし、魅力や価値を高め、後世に継承できるように関係者と連携しながら良好な景観の形成に取り組むとともに、楽しみながら回遊できる都市空間を創出します。

●ユニバーサルデザインの考えに基づいた整備を推進し安全な歩行空間を確保するとともに、都市景観及び都市防災機能の向上に努めます。

用語集

用語集

	用語	解説
あ	アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）	誰もが潜在的に持っている思い込みのこと。育つ環境、所属する集団の中で無意識のうちに脳にきざみこまれ、既成概念、固定観念となっていく。
う	ウォークアブルな空間	「歩く」の“walk”と「～できる」の“able”を組み合わせで作られた造語で、「居心地が良く、歩きたくなる空間」を形成すること。
か	開港5港	安政5（1858）年に締結されたアメリカなど五カ国との修好通商条約で開港することが定められた神奈川（横浜）、箱館（函館）、長崎、兵庫（神戸）、新潟の5つの港のこと。
く	区自治協議会	市民自治の推進を図るために、区民等と市をつなぐ「協働の要」として平成19（2007）年度に各区に設置された市長の附属機関のこと。
こ	高次都市機能	商業・業務、教育、文化、交流、医療、福祉などの都市機能のうち、より広域の人々を対象として、質の高いサービスを提供する機能のこと。
	交通結節点	バスのほか、電車やタクシー、自動車、自転車など様々な交通手段の接続が行われる乗り換え拠点のこと。
	交流人口	観光目的やビジネス目的などでその地域を訪れる人々のこと。
	コミュニティ	人々が共同体意識を持って共同生活を営む一定の地域及びその人々の集団。地域社会。共同体。
	コミュニティ・スクール	学校運営協議会を設置した学校のこと。学校運営協議会を通して、保護者や地域住民等が一定の責任と権限のもと学校運営に参画し、一体となってよりよい教育の実現に向けて連携、協働するもの。
し	自主防災組織	地域住民が「自分たちのまちは自分たちで守る」という共助の精神に基づき、地域の防災活動のために自主的に結成された組織のこと。
	循環型生涯学習	自ら学んだ成果を地域で生かし、学びを継承していくことで、新たなつながりを広げ、地域課題の解決や地域の活性化を推し進める人材の育成（活動の場の支援）を進めること。
	食と花の銘産品	新潟市が指定する、自信を持って全国に誇る自慢の農畜水産物のこと。
ち	地域コミュニティ協議会	市民と市が協働して、地域のまちづくりやその他の諸課題に取り組み市民自治の推進を図るため、おおむね小学校区を基本単位として、自治会・町内会を中心に様々な団体等で構成された組織のこと。
	地域と学校パートナーシップ事業	地域教育コーディネーターを学校に配置し、学校と社会教育施設や地域活動を結ぶネットワークを形成する事業のこと。
に	にいがた2km	新潟駅周辺・万代・万代島・古町をつなぐ約2kmの都心軸周辺エリアの呼称のこと。
ま	まちなか	まちの中で中心的機能を有する範囲。地域拠点、商業系地域を中心とした旧来からの中心的地区。
も	モビリティ・マネジメント	一人一人の移動手段の自発的な変化を促すためのコミュニケーションを中心とした交通施策のこと。
や	やさしい日本語	日本語を母語としない人などにも伝わるように、難しい言葉や表現を調整したわかりやすい日本語のこと。

	用語	解説
ゆ	ユニバーサルデザイン	障がいの有無や年齢などによらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方のこと。
ら	ラムサール条約	正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」。締約国には各湿地の管理計画の作成・実施、各条約湿地のモニタリング、湿地の保全に関する自然保護区の設定、湿地の保全管理に関する普及啓発・調査などが求められる。
英字	AI	Artificial Intelligence（人工知能）の略。知的な行為を、人工的に作られた知能で可能にする技術のこと。
	APEC	Asia-Pacific Economic Cooperation（アジア太平洋経済協力）の略。アジア太平洋地域の21の国と地域が参加する経済協力の枠組みであり、当該地域の持続可能な成長と繁栄に向け、貿易・投資の自由化・円滑化や地域経済統合の推進、経済・技術協力等の活動を行っている。
	DX	Digital Transformationの略。データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルの変革や、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革すること。
	G7	日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダの7か国及び欧州連合の首脳が参加して毎年開催される国際会議のこと。
	G8	G7にロシアを加えた枠組みでの国際会議のこと。
	G20	G7に参加する7か国に、アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、中国、インド、インドネシア、メキシコ、韓国、ロシア、サウジアラビア、南アフリカ、トルコ、欧州連合を加えた20か国・地域の首脳が参加して毎年開催される国際会議のこと。
	ICT	Information and Communication Technology（情報通信技術）の略。IT（Information Technology（情報技術））に「Communication」を加え、ネットワーク通信による情報・知識の共有が念頭に置かれた表現で、国際的にはITよりも一般的となっている。
	IoT	Internet of Thingsの略。様々なものがインターネットにつながることで、離れたところにあるモノの状態を把握して操作したり、サービスを利用したりできること。
	SDGs	Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略。よりよい社会の実現を目指す2030年までの世界共通の目標で、2015年の「国連持続可能な開発サミット」において193の加盟国の全会一致により採択された。将来世代のことを考えた持続可能な世界を実現するための17の目標と169のターゲットから構成されている。
	5G	第5世代移動通信システム（5th Generation）のこと。高速・大容量、超低遅延、多数同時接続が可能な移動体無線通信システム。



にぎわう都心、豊かな自然、みなとまち文化が
織りなす活気あふれる拠点のまち

編集・発行：令和5年3月 新潟市中央区役所地域課

〒951-8553 新潟市中央区西堀通6番町866番地 NEXT21 5階

TEL 025-223-7023 FAX 025-223-3660

ホームページ <https://www.city.niigata.lg.jp/chuo/>